

2014年度(平成26年度)

社会福祉法人アンビシャス事業報告

法人理念

『どんなに障がいが高くても、自己選択・自己決定・自己責任において、自分が望む地域で暮らせる社会を目指す』

基本方針

1. 私たちは、障がいを持つ方の「地域移行」「地域生活」「日中活動」を支援します。
2. 私たちは、このような社会を実現するための運動をしていきます。
3. アンビシャスは、障がい者自らが地域生活における力をつけるため、学び・考え・実践し、社会の中での役割を持ち一歩踏み出す場とします。

アンビシャスを利用する障がい者の皆さんへ

1. アンビシャスは、地域社会で自立していくための人生の通過的な場です。生きていくための自信と力が付き、次の目標が決まった時には、アンビシャスに限らず色々な所でその“力”を発揮していきましょう。
2. アンビシャスでは、手足が不自由だからと言って、障がい者ではありません。皆さんが得てきた経験や知識、持っている力をアンビシャス、そしてここで働くスタッフや仲間に分け与えて下さい。
3. 街をぶらつき歩くことも障がい者にとって大切な仕事です。街に行くと必ず壁にあたります。壁を取り払うのは障がい者だからこそ出来る仕事であり、社会を変える運動です。
4. 障がいの有無に関係なく、お互いに助け合って活動をし、学びあい、社会に発信していくことを大切にしましょう。
5. このような取り組みを率先して行っていきましょう。

目 次

| | |
|------------------------------|-------|
| 社会福祉法人アンビシャス「法人」 | P 4 |
| 生活介護事業所「デイサービスセンターいるか」 | P 7 |
| 生活介護事業所「フルハウス」 | P 1 1 |
| 生活介護事業所「自由工房」 | P 1 4 |
| 障がい者福祉ホーム「ステップ6・2」 | P 1 8 |
| 居宅介護事業所「アンビシャスケアセンター」 | P 2 2 |
| 相談支援事業所「相談室すきっぷ」 | P 2 5 |

社会福祉法人アンビシャス「法人」

事業方針

2013年4月より施行された「障害者総合支援法」を踏まえ、これまでの取り組みを検証しつつ、法人理念・基本方針を共有し、健全な法人運営のもとで具現化を進めていくという2014年度当初方針であった。しかし、法人開設後初めての総合施設長交替があり、スタッフ体制においても退職者等の動きの中で、事業計画に対する具体的な取り組みを十分に進める事に苦慮した1年であった。こうした状況の中であっても、利用率の向上や収入増に繋げることができた。組織体制や事業内容の見直し等の事業運営を「再構築」する必要がある、2015年度の課題である。

重点項目

- ①質の高いサービス提供に努め、利用者・家族から信頼され、必要とされる法人。
- ②中長期を見据えた人材育成を行い、スタッフが自覚と誇りが持てる職場づくり。

計画実施内容

①受け入れ体制及び活動場所の拡充

- ・自由工房における送迎サービスの開始【4月1日】
- ・福祉ホーム定員削減 18名→13名【5月1日付変更】
- ・削減分の居室スペースをフルハウス活動スペースとして改修【6月9日～7月10日】工事費 7,797,600円
- ・フルハウスを本体施設2階に移転【7月1日】
- ・特別支援学校高等部3年生を対象とした、夏休みや希望日の体験受入れ【自由工房2名・フルハウス3名】
- ・相談室すきっぷ改修工事【7月】工事費 600,600円

②質の高いサービスに向けて

- ・リスクマネジメントへの取り組みとして、各種委員会の設置による機能強化を図った。しかし、年度途中での退職者や人事異動などによる委員会業務の中断を余儀なくされた。次年度において委員会の再構成を行う【虐待防止・苦情解決委員会、感染防止委員会、ヒヤリハット・事故防止委員会、安全委員会(医ケア)】
- ・家族懇談会の実施
10月4日(土) 10:00～12:30
当法人開設以来、初めて生活介護事業の家族懇談会を実施。利用者・ご家族・役員・職員が懇談する時間を持つことができた。参加者は、利用者14名、ご家族18名、役員5名、職員18名の合計55名。日中活動3事業所に分かれて懇談する時間及び全体会をもち、情報共有を行った。次年度以降も継続し

て、利用者アンケート実施後に懇談会を開催する予定。

- 虐待、人権をテーマとした研修会の実施 12月6日（土）開催
テーマ：「虐待に関する学び」 講師：西村武彦弁護士
対象：利用者、家族、職員（ヘルパーを含む）
事前に利用者・職員を対象に虐待に関するアンケートを実施し、意識調査や事前質問を受付け、研修前準備を行った。参加者は上記対象者の他に、北海道庁職員や当法人役員等合計67名。今後は、西村弁護士と共に勉強会を継続する予定。
- 利用者、家族へのサービス利用に関するアンケート調査の実施【自由工房、いるか、フルハウス、ステップ6・2、ケアセンター、すきっぷ】意見要望に対して、早期に改善すべき事項の対応は行ったが、検討を要する要望については、今後の課題とする。

③人材育成・人材確保

- 法人内研修の充実を図る予定であったが、札幌市への「事故報告」が3件あり、職種や経験に応じたOJTを含む研修の実施は、次年度の取り組み課題とした。
- 各事業の職員補充（退職者・退職者の対応）のためにハローワークを始め求人誌への募集掲載、新聞折込みや近隣住宅へのチラシポスティングを行った。結果、パート職員2名の採用のみで必要人員の充足には至らなかった。更に年度末において、事務職員の入院により、人材派遣会社からの派遣に頼らざるを得ない状況もあった。このように年度内途中の採用が難しい状況であった為、新年度に向けての新規採用に切り替え、4月採用に向けて募集を行い、3名の新規採用予定となった。

④中長期の検討と展望の具体化への取り組み課題は充分には実施できなかった為、今後も継続して行う。

- 法人理念、基本方針の見直しと共有
- 上記に係る利用者及び職員の研修
- 障がい当事者スタッフの採用、育成
- 利用者、地域ニーズに基づいた事業展開
- 運営、管理体制の機能強化

⑤法人の動向

- 末永仁宏氏が監事を退任【5月31日】
- 棟達也氏が監事就任【6月28日】
- 宮本敦子氏が理事及び評議員を退任【7月16日】
- 後任に小林満氏が理事・評議員に就任【7月17日】
- 小山内美智子氏が総合施設長を退任【7月31日】

- 2代目総合施設長に澤口京子氏が就任（理事長兼務）【8月1日】
- 法人定款変更認可【8月27日】理事定数8名、評議員定数17名への変更
竹田保氏が理事・評議員に就任【8月29日】
内海滋子氏が評議員に就任【11月8日】
- 2月17日理事会において、澤口総合施設長の退任が承認され、後任に吉村副施設長が就任することが決定。

⑥札幌市への事故報告

- 相談室すきっぷ：相談者への不適切な対応に関する事故報告【8月26日】
- 相談室すきっぷ：サービス等利用計画作成に係る業務不備【2月3日】
- 送迎車両接触事故（札幌市より貸与車両）：【2月26日】

⑦その他

- 虐待事例利用者処遇について

2013年より、関係機関と共に経過を注視してきた自由工房利用者への実母からの虐待について、2015年1月に本人より虐待の訴えがあったことが判明。相談室すきっぷが窓口となり、虐待通報を西区役所に行った。その後の虐待対応の経過の中で利用者本人から自立生活の希望があり、本人及び実母にGHの説明及び見学同行を経て、3月に開設したGH体験利用を行い4月より入居となり虐待防止策としての母子分離に至った。12月の西村弁護士による研修会が、法人職員の具体的な行動へと繋がったといえる。

- 各種助成金の報告

ア、日本財団

- 車いす対応軽自動車 1台 （870,000円）
- 車いす対応車（車椅子4名）1台 （2,450,000円）

イ、公益財団法人友友福祉振興財団

- 特殊排泄用ベッド 1台 （462,240円）
- 電動リモートコントロールベッド 1台 （188,611円）
- 車椅子用体重計、床走行リフト 一式 （358,387円）

生活介護事業所「デイサービスセンターいるか」

事業方針

- ①地域ニーズに応え安定した事業運営の実施
- ②自分らしく、楽しく、笑顔があふれる日中活動の提供
- ③身体状況を把握した個別の介助

重点項目

- ①新規登録者、既存登録者の受入れ調整の実施
- ②企画については、内容に合わせて平日の他にも土曜日・祝日営業により実施する
- ③ヒヤリハット・事故防止に向けたスタッフ研修の充実

事業方針・内容

- ① 地域ニーズに応え安定した事業運営の実施
 - ・ 契約日数に余裕がある方や利用回数増を希望する方に対して、事業所の受入れ体制を再調整し個々の利用ニーズに応えてきた。しかし、年末よりスタッフの病気休暇や退職があった為、支援体制の整備については他事業スタッフの協力のもと介助体制を整えた。
 - ・ 新規利用者の問い合わせは近隣の相談支援事業所からが多く、今年度は11名の方が利用開始となった。一方では、ご家族の都合や入院治療により利用解除となる方が多くあった1年でもあった。
 - ・ 今後も現利用者の利用ニーズに応えつつ新規利用者の受け入れを行い、日中活動と支援内容の充実を図ると共に、地域福祉サービスの拠点としての事業所運営を図っていきたい。
- ② 自分らしく、楽しく、笑顔があふれる日中活動の提供
 - ・ 個別の活動ニーズから、グループによる活動の展開に向けたスタッフ間の連携に努めてきたが、既存活動の発展した取り組みには至らなかった。今後も日中活動の更なる充実に向けて継続的に取り組んでいきたい。
 - ・ 企画を中心とした曜日別の外出については、通常営業による入浴を希望される方が多くいる事から、今年度は土曜日に曜日別外出を実施する事としてきたが、5つの曜日のうち2回が企画への参加率が低く実施には至らなかった。土曜日開催となった事や外出先に興味が少なかった事が主な背景としてあるが、行き先の選定と実施方法については工夫が必要である。

③身体状況を把握した個別の介助

- ・毎月実施しているスタッフミーティングにて、利用者の身体状況から介助方法、医療と健康面に関する事まで情報の共有に努めてきた。
- ・日中活動や介助中の安全面を第一に考えつつ、利用者自身と介助方法の確認を行い、スタッフ間の共通認識のもと支援を行ってきた。その他、専門性が求められるものについては、家族又は各関係機関と情報共有を図り、日中活動中の事故の無い安心安全な支援の提供に努めてきた。

重点項目

① 新規登録者、既存登録者の受入れ調整の実施

現利用者と新規地域ニーズに対する受け入れを円滑に行い、計画目標であった1日利用平均13.7名（定員14名）を上回る14名の利用実績となった。また、利用者ニーズにマッチングした活動と支援体制の整備については、日中活動中の効率の良いスタッフの動き方と配置について確認を行った。

② 企画については、内容に合わせて平日の他にも土曜・祝日営業により実施

曜日別外出の決定は利用者を中心とした茶話会にて行き先を選定したが、参加率低調により企画中止もあった。年間企画の予定として組んでいなかった雪まつり外出を代替え企画として行った。次年度の外出先の選定方法については工夫が必要であり、より多くの方が参加できる曜日別外出を実施していきたい。その他、併設の生活介護事業自由工房との合同企画を実施した。夏にはバーベキュー、冬に鍋交流会の2回行ったが、非常に好評で多くの方が参加された。

③ ヒヤリハット・事故防止に向けたスタッフ研修の充実

事故防止に向けた研修の実施には至らなかったが、年度途中よりヒヤリハットの記録整備と様々な事案の蓄積を行った。また、実際に起きた事故ケースについては、再度スタッフミーティング内で共有化を図った。再発防止に向けて専門職として必要な介護技術の向上と事故の予測、安全第一に考えた視点を養う事を継続的に取り組んでいきたい。

■年齢別利用者数（人数）

| | 25～34 | 35～44 | 45～54 | 55～64 | 65歳～ | 合計 | 平均年齢 |
|----|-------|-------|-------|-------|------|----|------|
| | 4 | 4 | 4 | 4 | | | |
| 男性 | 1 | 2 | 6 | 11 | 10 | 30 | 59 |
| 女性 | 1 | 9 | 3 | 7 | 6 | 26 | 54 |
| 合計 | 2 | 11 | 9 | 18 | 16 | 56 | 57 |

■障がい支援区分（人数）

| | 区分1 | 区分2 | 区分3 | 区分4 | 区分5 | 区分6 | 合計 |
|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|
| 男性 | 0 | 4 | 10 | 4 | 5 | 7 | 30 |
| 女性 | 1 | 5 | 8 | 6 | 1 | 5 | 26 |
| 合計 | 1 | 9 | 18 | 10 | 6 | 12 | 56 |

■2014年度月別利用状況

| 項目 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 | 平均 |
|------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-------|
| 新規登録者 | 1 | 3 | 2 | 1 | 1 | 0 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 11 | 0.9 |
| 利用解除者 | 0 | 2 | 2 | 0 | 1 | 2 | 4 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 13 | 1.1 |
| 登録者数 | 59 | 60 | 60 | 61 | 61 | 60 | 56 | 57 | 57 | 56 | 56 | 56 | | 58.3 |
| 開設日数 | 22 | 21 | 21 | 23 | 19 | 21 | 23 | 18 | 21 | 19 | 18 | 22 | 248 | 20.7 |
| 延利用者数 | 292 | 301 | 300 | 311 | 268 | 313 | 319 | 249 | 284 | 275 | 273 | 294 | 3479 | 289.9 |
| 1日 利用平均 | 13.3 | 14.3 | 14.4 | 13.5 | 14.1 | 14.2 | 13.9 | 13.8 | 13.5 | 14.5 | 13.7 | 13.4 | 1666 | 14 |

■年間企画活動報告

| 4月 | 10月 |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・陶芸／8回 | <ul style="list-style-type: none"> ・陶芸／8回 ・絵手紙／2回 ・美文字教室／2回 ・利用者家族懇談会 ・定山溪森の謳外出 |
| 5月 | 11月 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・陶芸／8回 ・絵手紙／2回 ・レモン風呂 | <ul style="list-style-type: none"> ・陶芸／6回 ・絵手紙／2回 ・日帰り温泉（定山溪温泉森の謳）／2回 |
| 6月 | 12月 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・陶芸／8回 ・絵手紙／2回 | <ul style="list-style-type: none"> ・陶芸／6回 ・絵手紙／2回 ・クリスマス忘年会 ・茶話会 ・ミカン風呂 |
| 7月 | 1月 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・陶芸／8回 ・絵手紙／2回 ・美文字教室／3回 ・札幌ファクトリー外出 ・ヒノキ風呂 ・七夕茶話会 | <ul style="list-style-type: none"> ・陶芸／5回 ・絵手紙／2回 ・新春茶話会 ・ミカン風呂 |
| 8月 | 2月 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・陶芸／6回 ・絵手紙／2回 ・美文字教室／1回 ・生活介護合同バーベキュー | <ul style="list-style-type: none"> ・陶芸／8回 ・絵手紙／2回 ・鍋交流会 ・雪まつり見学 |
| 9月 | 3月 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・陶芸／7回 ・美文字教室／2回 ・ながつきフェスティバル ・ガトーキングダム外出 | <ul style="list-style-type: none"> ・陶芸／9回 ・絵手紙／2回 ・美文字教室／2回 |

指定生活介護事業所「フルハウス」

事業方針

- ①五感刺激、健康維持活動を基本として、他機関とも連携した中で本人の生活をより豊かになるよう個性を活かしたプログラムの実施。
- ②法人理念の実現に向けて、重度心身障がいの方であっても、住み慣れた地域で暮らす事が可能となる日中活動の場を保障。

重点項目

- ①スムーズな移転の実施と、移転後の更なる活動の充実
- ②安定した体制確保とスタッフのスキルアップ
- ③個別支援計画の計画的実施

■事業総括

障がい特性に合わせて、創作活動や調理などは作業手順を分担制にし、一人一人が作業工程を楽しめるよう工夫し、活動に集中出来る時間を意識し取り組んできた。また、日々の日中活動は、当日の体調を考慮し、本人が少しでも参加する視点を大切にし、個別支援を行った。

また、新規利用者2名を年度途中で受入れ、年度末には支援学校の卒業生も2名受入れる事が出来た。新規利用者のニーズも様々あり、体験利用等を経て送迎サービス、医療ケア、給食形態（二次調理）、活動内容など、サービス提供のマッチングが出来た。

■重点項目

- ①スムーズな移転の実施と移転後の更なる活動の充実
 - ・利用者の様子については、環境の変化により、いつもより少なからず疲れている様子であった事をご家族より報告を受けたが、現在は移転前と変わらない様子で自宅でも過ごし、フルハウスを利用されている。また、移転後のメリットとしては、併設の事業所でもある「いるか」「自由工房」との交流ができる事が楽しみという声も聞かれ、調理の活動の一環で流しそうめんを企画した。全長約8メートルの流し台を作成し、自由工房、いるか、フルハウス利用者が一緒に楽しむ事が出来たのが印象的である。また、クリスマスツリーの装飾品を共同で飾りつけをしたり、音楽演奏会など交流の幅が広がり、今後も取り組んでいきたい。
 - ・サービス提供として、送迎サービスについては、大きな時間変更もなく、移転前と同じような時間帯で運行できた。また、給食サービスについては、移転前の献立メニューより法人内の献立メニューの方が豊富で麺類やパン食が新たに提供可能となった。また、合わせて、メニューの二次調理も法

人内での厨房で対応可能となり、今後も厨房との連携が必要である。

- 活動スペースの整備についても、利用者の活動状況に合わせて少しずつ調整を行なうことが出来ている。その他としては、様々な活動で創作した作品等を展示するために展示壁を設けた。この展示壁や居室内を有効活用し展示可能となった。そして、フルハウスの特色と言えるスヌーズレンの環境もベッドやごろ寝スペースに側に配置し、静養している状況でも利用しやすいように配慮する事が出来た。

②安定した体制確保とスタッフのスキルアップ

職員体制については、5～6月に常勤職員が2名退職と主任の交代があった。6月の人事異動より常勤職員を1名配置し、支援体制の再構築に努めたが、非常勤職員の多くが扶養の範囲内での所得制限があり看護師の短期間契約職員を10月より雇用する対応を行った。その他、9月より育児休業取得中の常勤職員が早期復帰したことにより、職員体制の安定に繋がった。その後、看護師の退職もあり、体制整備に向けての募集を行っているが補充できていない。このような状況からスキルアップに向けての計画的な取り組みができなかった。利用者へ柔軟な対応が可能となるように、介護職員による医ケア研修の受講や個別支援計画の更新を計画的に取り組みたい。

③個別支援計画の計画的実施

個別支援計画に基づいたサービス提供を行い、日々の家族からの情報提供や定期的なモニタリングを活かし、今後も計画作成・実施を行っていきたい。

■年齢別利用者数 ※2014年度末(2015年3月31日現在)の数値で算出

| | 15～24 | 25～34 | 35～44 | 45～54 | 合計 | 平均年齢 |
|-------|-------|-------|-------|-------|----|------|
| 男性(名) | 4 | 0 | 0 | 1 | 5 | 26.3 |
| 女性(名) | 5 | 2 | 1 | 0 | 8 | 24.9 |
| 合計(名) | 9 | 2 | 1 | 1 | 13 | 25.4 |

■障がい支援区分

| | 区分5 | 区分6 | 合計 |
|-------|-----|-----|----|
| 男性(名) | 0 | 5 | 5 |
| 女性(名) | 3 | 5 | 8 |
| 合計(名) | 3 | 10 | 13 |

■利用者数

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 |
|--------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 開所日数 | 21 | 20 | 21 | 22 | 18 | 19 |
| 利用者述数 | 91 | 82 | 88 | 92 | 73 | 81 |
| 一日利用平均 | 4.3 | 4.1 | 4.2 | 4.1 | 4.1 | 4.2 |
| 新規者 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 解除者 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| 体験利用者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 3 |

| | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 述／平均 |
|--------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|
| 開所日数 | 22 | 18 | 20 | 19 | 18 | 22 | 240 |
| 利用者述数 | 93 | 73 | 78 | 70 | 65 | 101 | 987 |
| 一日利用平均 | 4.2 | 4.1 | 3.9 | 3.7 | 3.6 | 4.6 | 4.1 |
| 新規者 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 4 |
| 解除者 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| 体験利用者数 | 0 | 0 | 1 | 3 | 0 | 0 | 8 |

■年間企画活動報告

| 4月 | 10月 |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・中央図書館外出 ・イオン、メガドンキホーテ、コーチャンフォー外出 ・桜絵壁画作り ・シュークリーム作り ・スヌーズレン | <ul style="list-style-type: none"> ・移転後の物品買い物外出 ・調理物品買い物外出 ・発寒川緑地散策 ・コーチャンフォー買い物外出 ・紅葉壁画作り ・ハロウィンかぼちゃホットケーキ作り ・プリン作り、リンゴジャム作り |
| 5月 | 11月 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・花見、公園散策 ・桜絵壁画作り ・手打ちうどん作り ・スヌーズレン | <ul style="list-style-type: none"> ・前田森林公園散策 ・山の手図書館 絵本等のレンタル外出 ・芸術の森(藤城誠治の世界展)外出 ・クリスマス壁画作り ・アップルタルトタタン作り |
| 6月 | 12月 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・白い恋人パーク外出 ・チャリティーコンサート外出 ・ケーキ作り ・フルハウス看板作り ・父の日カード作り ・スヌーズレン | <ul style="list-style-type: none"> ・芸術の森(藤城誠治の世界展)外出 ・クリスマスカード作り ・クリスマス会 ・クッキー作り ・スポーツレクリエーション ・手、足浴 |
| 7月 | 1月 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・東海大学ラベンダー外出 ・ふきのとう図書館外出 ・流しそうめん ・七夕装飾作り ・スポーツレクリエーション、外遊び ・スヌーズレン | <ul style="list-style-type: none"> ・書初め ・スヌーズレン ・鬼の面作り ・シチュー作り |
| 8月 | 2月 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・札幌市消防学校一般公開日外出 ・玉ねぎ染め買い物外出、玉ねぎ染め作り ・バナナとヨーグルトのスムージー作り ・いももち作り ・スヌーズレン | <ul style="list-style-type: none"> ・豆まき ・入浴剤作り ・スヌーズレン ・クレープ作り ・手、足浴 |
| 9月 | 3月 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・西宮の沢公園散策 ・小樽サセットビーチ散策 ・いももち作り ・紅葉壁画作り ・スポーツレクリエーション ・スヌーズレン | <ul style="list-style-type: none"> ・桜もち作り ・こいのぼり作り ・スポーツレクリエーション ・スヌーズレン ・手、足浴 |

生活介護事業所「自由工房」

事業方針・内容

- ①社会生活力の向上・社会参加
- ②生産活動・職業体験
- ③可能性の発掘

重点項目

- ①『個別支援と関係機関との連携』
- ②『自立生活プログラムの実施』
- ③『送迎サービスの実施と利用率向上に向けた取り組み』

事業方針・内容

- ①社会生活力の向上・社会参加
 - ・ミニピアカンと題して、澤口理事長によるカウンセリングを5回実施した。
 - ・健康体操講師（西野学園札幌リハビリテーション専門学校、90分×3講義）では2名の新しい利用者が加わり4名で担当した。講師としての緊張感や原稿作成に向けて取り組めたことは、自身の達成感と自信となる経験になり、今後も取り組んでいきたい。
 - ・利用者主体となる全体ミーティングが3年目で定着しており、企画や日中の活動が利用者中心に自発的な取り組みとなるよう支援の提供に努めてきた。
 - ・パソコン活動では、個別目標への取り組みや受注作業、利用者の日直当番表や欠席表の作成など自主的に取り組み良い成果となっている。
 - ・北星学園大学のボランティアサークル「エイブル」との交流は盛んに行われ、土曜日外出やながつきフェスティバルへの参加協力を呼びかけるため、大学への訪問など実施した。
- ②生産活動・職業体験
 - ・喫茶活動では、週平均3回の営業を安定した形で運営できた。
 - ・ステンシルふきん・ガーゼハンカチの創作活動は互いに協力し合い、技術やカラーの使い方なども独創性が増え、バリエーション豊かな仕上がりとなった。また、新たにエコバックやお弁当袋などの作成も始め、とても好評であった。
 - ・夏季限定で、外部委託による老人保健施設へ届ける苗を育てる作業や野菜販売などに参加し、自然と土に触れる機会として楽しみながら活動に取り組めた。
 - ・他団体のボランティア活動として、イオンで行われている黄色いレシートキ

キャンペーンに参加し、店内に立ち声を出す機会は利用者にとって貴重な経験となった。

③可能性の発掘

- ・重度障がいの方の受け入れが可能となるよう、特別支援学校卒後の受け入れとして、高校3年生を対象とした夏休み中の体験学習を2名受け1名の新規利用に繋がった。
- ・3月に新規契約した2名の利用者は言葉での意思疎通は出来ないが、表情や指さしサインなどで活動、利用者同士での助け合いや声掛けなどがとても増え、お互いの良い刺激となっている。

重点項目

①『個別支援と関係機関との連携』

- ・個別支援会議を定期的に行う事が出来ずに更新が遅れてしまう事があったため、スタッフ間の共通認識を再度確認した。支援に向けた方向性を深めていく事、また個別支援に向けた職員の自己研鑽と支援の充実に努める事に取り組み、10月からの支援ソフトの導入後は計画的で実用的な個別支援計画の作成に取り組めた。

②『自立生活プログラムの実施』

- ・自立生活プログラムでの取り組みは、男性、女性に分かれて企画を実施したが全体でのILPが実施出来なかった。
女性ILP：2回 男性ILP：2回
- ・防災関係の活動として、ながつきフェスティバルで防災に関する活動状況を担当者がステージで発表。達成感を得る良い機会となり今後も継続的に取り組んでいきたい。

③『送迎サービスの実施と利用率向上に向けた取り組み』

- ・今年度中の新規利用者は4名、年度末時点で登録者23名となる。
- ・4月より送迎サービスをスタートし、現在の送迎利用者は16名となっている。送迎時に利用者のご家族と接点が増えたことで、自由工房の活動の様子や情報交換等の図れる機会となっている。
- ・事業所による送迎は現在スタッフ1名体制で行っている為、初めての冬季送迎を経て、利用者の移動や安全な送迎体制の課題が残った。
- ・土曜日営業月2回の実施については、人員不足などの影響もあり下半期は実施が難しく1回もしくは実施出来ない月もあった。
- ・12月より1日50円の出席手当の支給を開始した事が、利用者にとっても喜ばれ励みとなっており、これまで通院等で欠席していた方が遅刻・早退するなど欠席をしないように努力する姿も見られた。

《利用状況》

年齢別利用者数

| 性別 \ 年齢 | 15~24 | 25~34 | 35~44 | 45~54 | 合計 |
|---------|-------|-------|-------|-------|----|
| 男性(名) | 3 | 6 | 3 | 1 | 13 |
| 女性(名) | 3 | 5 | 2 | 0 | 10 |
| 合計(名) | 6 | 11 | 5 | 1 | 23 |

障がい支援区分

| 支援区分 | 区分6 | 区分5 | 区分4 | 区分3 | 区分2 | 合計 |
|-------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 人数 | 7 | 7 | 3 | 5 | 1 | 23名 |
| 障がい等級 | 1級 | 2級 | 3級 | 合計 | | |
| 人数 | 12 | 9 | 2 | 23名 | | |

利用者登録数 / 23名

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 |
|--------|------|-------|----------|-------|-------|--------|
| 開所日数 | 22 | 22 | 22 | 22 | 20 | 21 |
| 利用者数 | 288 | 293 | 282 | 293 | 276 | 276 |
| 1日利用平均 | 13 | 13.3 | 12.8 | 13.3 | 13.8 | 13.1 |
| 新規利用者 | 0 | 0 | 1 | 0 | 夏休み2 | 0 |
| 利用解除者 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 体験利用者数 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 |
| | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
| 開所日数 | 23 | 18 | 20 | 19 | 20 | 22 |
| 利用者数 | 317 | 254 | 282 | 263 | 252 | 324 |
| 1日利用平均 | 13.7 | 14.1 | 14.1 | 13.8 | 12.6 | 14.7 |
| 新規利用者 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 利用解除者 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 |
| 体験利用者数 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 開所日数 | 延利用者数 | 1日平均利用者数 | 新規利用者 | 利用解除者 | 体験利用者数 |
| 合計 | 251 | 3400 | 13.5 | 4 | 1 | 2 |

年間企画活動報告

| 4月 | 10月 |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・男性 I L P ・陶芸・生け花 | <ul style="list-style-type: none"> ・懇談会 ・赤い羽根共同募金 ・西野学園健康体操講師 ・陶芸 |
| 5月 | 11月 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・土曜日活動「花見外出」 ・陶芸・生け花 ・土曜日活動「三井アウトレットパーク」 | <ul style="list-style-type: none"> ・西岡イオン黄色いレシートボランティア参加 ・茶話会 ・外出企画「発寒イオンバイキング」 ・陶芸・生け花 |
| 6月 | 12月 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・土曜日活動「食事会」 ・調理実習「オムライス」 ・女性 I L P ・健康体操 | <ul style="list-style-type: none"> ・クリスマス忘年会 ・陶芸 ・女性 I L P |
| 7月 | 1月 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・陶芸・生け花 | <ul style="list-style-type: none"> ・陶芸 ・調理実習「ペペロンチーノ」 |
| 8月 | 2月 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・いるか・自由工房合同BBQ ・西岡イオン黄色いレシートボランティア参加 ・土曜日活動「小樽ウイングベイ」 ・調理実習「パンケーキ」 ・陶芸 ・男性 I L P | <ul style="list-style-type: none"> ・陶芸 ・合同鍋パーティー |
| 9月 | 3月 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ながつきフェスティバル ・土曜日活動「スガイボーリング」 | <ul style="list-style-type: none"> ・健康体操 ・年度末食事会「ジンギスカン宮の森」 ・西岡イオン黄色いレシートボランティア参加 |

障がい者福祉ホーム「ステップ6・2」

事業方針

福祉ホーム本来の役割を再確認し強化する

重点項目

1. 入居待ちされている方の入居前準備と促進
2. ホームから地域移行への新しい道筋の開拓と実績の構築
3. 多種多様な福祉ホームの利用方法の模索
4. 新規入居者の獲得

事業方針

福祉ホーム本来の役割を再確認し強化する

- ・フルハウスの本体の移転計画（7月）に伴い、ホームの定員を18名から13名に変更（5月1日付）。ホーム管理者の変更（8月1日付）
- ・新規入居者2名のうち1名は、両親の高齢化による実家での介助体制に不安を感じ、当初はホーム以外でのアパート生活を希望していた。2度の体験室利用を経て、住宅探しを行ったが、所得や保証人等の条件により入居契約に至ることが困難な状況から、ホームにおいて生活保護を受給し、数年後の移行を目標とし入居に至った。
- ・入居者の内2名が65歳以上であり、当初の事業目的である地域移行に向けた「通過的な住まいの場」として、入居者との面談を通して現状の把握と次の住まいの希望等を再確認する取り組みが十分に行えなかった。

重点項目

1. 入居待ちされている方の入居前準備と促進
 - ・入居前準備として、体験室の活用は必要に応じて行うことはできた。しかしながら、体験の受け入れや体験に対する札幌市地域移行体験事業の補助金活用に関して時間がかかってしまうことも多く、円滑に行えるよう他事業との連携も含め体制を確認していく必要がある。
 - ・セルフプランの作成支援、事業所の調整、入居前及び入居2ヶ月目のケア会議の開催等、入居に伴うサービス利用支援を実施。
2. ホームから地域移行への新しい道筋の開拓と実績の構築
 - ・外部の重度障がいの地域生活の相談に対して、入所施設から数回の体験利用を経てホームに入居し、3年半の利用の後、6月に地域のアパートに移

行された方を紹介し、入所施設から現在に至るまでの体験談を伝えていただいた。

3. 多種多様な福祉ホームの利用方法の模索

- ・6月より将来を想定し、家族の支援を離れた体制作りに向けて、毎週2泊3日の利用から入居開始した利用者が1名。相談支援事業者が関係機関を取りまとめ、多くの支援機関が関ってる。重複障がいが発語が困難な為、ご本人の意思は、声の様子や表情から汲み取り支援し、生活を組み立てて過ごしている。これまで主な対象としてきた明確な意思表示や指示ができる方でなくとも、支援体制によって地域生活が可能であることを改めて感じた。

4. 新規入居者の獲得

- ・ホームの入居案内チラシを作成し、関係機関に配布する計画であったがチラシ案作成にとどまった。

5. その他報告事項

- ・札幌市身体障がい者施設連携協議会主催の大規模災害を想定した避難訓練に、入居者2名が参加。(9月21日)
- ・リスクマネジメントの取り組みとして、入居者の緊急時対応の個人ファイルの見直し及び作成を行った。
- ・ホーム入居者交流会(9月29日)
- ・情報提供として、共有スペースに掲示案内。(市営住宅募集案内、薬と食べ物の飲み合わせ、夏バテの原因と予防、高血圧と心筋梗塞・狭心症の予防、ネットスーパーってなに?)
- ・強風による屋根の損傷修理、居室内の雨漏りなどもあり、経年劣化に対する対応等も頻度が多くなってきている。

次年度に向けた取り組むべき課題

- ①入居率の向上
- ②入居希望者に対する体験から入居までの支援
- ③入居者のホームから地域移行への希望する生活に向けた支援
- ④入居者に対するスタッフの支援体制

1. 月別入退居状況

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|------------|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|
| 初日 入居者数 | 11 | 11 | 12 | 11 | 11 | 11 | 10 | 10 | 11 | 10 | 10 | 10 |
| 入居者数 | | | 1 | | | | | | 1 | | | |
| 退居者数 | | | 1 | | | 1 | | | 1 | | | |

【退居者：3名】

| 退居日 | 性別 | 年齢 | 障がい名 | 退居後の動向 |
|-------|----|----|-------------------|-----------|
| 6/6 | 女性 | 41 | 脳性まひ | アパート（手稲区） |
| 9/21 | 女性 | 60 | 両混合性難聴、緑内障による視覚障害 | 実家（家族と同居） |
| 12/12 | 女性 | 30 | 頭蓋内出血による四肢体幹機能障害 | 実家（家族と同居） |

【入居者：2名】

| 入居日 | 性別 | 年齢 | 障がい名 | 入居前の生活 |
|------|----|----|----------------|-----------|
| 6/1 | 女性 | 22 | 低酸素脳症による痙性四肢麻痺 | 実家（両親と同居） |
| 12/1 | 女性 | 42 | 脳性まひ | 実家（両親と同居） |

2. 利用年数別入居者数

| | 1年未満 | 1～2年 | 2～3年 | 3～4年 | 4～5年 | 5年～ | 合計 |
|----|------|------|------|------|------|-----|----|
| 男性 | | | | 1 | 1 | 4 | 6 |
| 女性 | 2 | 1 | | 1 | 0 | | 4 |
| 合計 | 2 | 1 | | 2 | 1 | 4 | 10 |

3. 年齢別入居者数

| 性別 | 15～24 | 25～34 | 35～44 | 45～54 | 55～64 | 65歳以上 | 合計 | 平均年齢 |
|----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|----|------|
| 男性 | | | | 2 | 2 | 2 | 6 | 59.5 |
| 女性 | 1 | | 2 | | 1 | | 4 | 38.5 |
| 合計 | 1 | | 2 | 2 | 3 | 2 | 10 | 51.1 |

4. 障がい種別

| 種別 等級 | 脳性マヒ | 脳血管 障がい | フール 症候群 | 頸椎損傷 | 両混合性 難聴 視覚障 がい | 全身性 エリテマ トードス | 多発性 硬化症 |
|----------|------|------------|------------|------|-------------------------|---------------------|------------|
| 1級 | | 3 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 2級 | 2 | | | | | | |

5. 自立生活体験室利用状況

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|------------|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|
| 利用者数 | 4 | 4 | 3 | 2 | 2 | 2 | 4 | 2 | 2 | 1 | 2 | 1 |
| うち自 立体験 | 2 | 3 | 1 | 2 | 1 | 1 | | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 利用 日数 | 10 | 12 | 21 | 5 | 4 | 6 | 24 | 13 | 6 | 5 | 5 | 4 |

6. 開設時からの実績（2000年4月～）

・利用者総数：67名（内、2014年3月31日現在の入居者含む）

【退居後の移行先】

| アパート | 市営住宅 | 共同住宅 | 家族と同居 | 病院 | 寮 | 入所施設 | 死亡 その他 | 合計 |
|------|------|------|-------|----|---|------|-----------|----|
| 33 | 6 | 3 | 11 | 2 | 1 | 1 | 2 | 59 |

居宅介護事業所「アンビシャスケアセンター」

事業方針

- ① 地域で安心した生活を送れるサービスの提供
- ② 質の高いケアと安定した派遣

重点項目

- ① 居宅介護計画の充実
- ② 質の高いケアと安定した派遣のための体制作り
- ③ 重度の障がいを持つ方への支援体制の強化

事業方針

- ① 地域で安心した生活を送れるサービスの提供
- ② 質の高いケアと安定した派遣

- ・3月末現在の利用者数は45名、利用解除者は6名となっている。派遣時間数の月平均は1,886時間と昨年度末(月平均1,930時間)と比較すると下回った。減少の背景には福祉ホーム退居者2名(派遣実施地域外への引越し)、介護保険移行に伴う利用解除が3名。その他、長期入院による派遣中断や既存の利用者でヘルパー派遣が困難な時間帯を他事業所に移行したことによるものである。来年度以降も介護保険に移行対象となる利用者がある為、介護保険制度の知識を更に深め、介護保険と障がい福祉サービスの併用に関する情報提供と関係機関との連携を図っていきたい。
- ・非常勤ヘルパーの補充は、求人誌や法人ホームページ、地域へのチラシ配布を行い3名の雇用に繋がったが、勤務条件に制限も多く、人材不足は解消されていない。安定したサービスの提供や新規利用者を増やしていくためにも、地域へのチラシ配布やヘルパー養成校等への募集の呼びかけを行い人材確保に努め、ヘルパーの人材育成と合わせて継続した課題として取り組んでいきたい。

重点項目

- ① 居宅介護計画の充実
 - ・サービス提供責任者による派遣状況は月平均20～70時間であった。サービス提供責任者が派遣に入ることで、利用者の生活状況やニーズを把握することができた。しかし、急な派遣代行や、慢性的なヘルパー不足による派遣が中心であった。利用者の生活状況を把握するためにも、偏りのないヘルパー派遣調整に努め、居宅介護計画の作成と見直しに活かしていきたい。

たい。

② 質の高いケアと安定した派遣のための体制作り

- 新規利用の問い合わせが数件あったものの、ヘルパーを確保することができず、新規派遣の受け入れができない状況もあった。その為、今年度は現状の体制において対応可能な範囲で新規受け入れを進めていく事に重点を置き、福祉ホーム入居に伴う短時間派遣等の新規受け入れを行った。
- サービス提供責任者が派遣に出ている事が多く、スタッフやヘルパー間の情報共有があまり出来ない状況も多くあったことから、情報共有ができる体制の見直しと環境整備が課題である。
- 平成26年度福祉・介護人材確保総合対策事業（キャリアパス支援事業）の助成金により、イムス札幌内科リハビリテーション病院、理学療法士の塩原貴之氏と4名の理学療法士、作業療法士の方々を講師に招き、「腰痛予防について」の研修を行うことができた。専門的な立場から、体の仕組みや姿勢、腰痛予防体操について、講義及び実技を行った。実際に体を使い、在宅でも使用できる簡単な福祉用具を無理な姿勢にならなく、移乗や体位変換ができるポイントなど学ぶことが出来た。腰痛予防は、介助するにあたり重要なことであることから、継続して行っていきたい。研修計画では2回の開催予定であったが、助成金要件である外部事業所の参加が無かったため1回の開催に留まった。来年度は、スキルアップや質の高いケアが提供できるよう研修内容を実施していく。

③ 重度の障がいがある方への支援体制の強化

- 7月より常勤スタッフによる夜勤体制を増やすことができたが、連休による日中活動が休業である時間帯のヘルパーの派遣調整に苦慮した。今後は他の福祉サービス利用も含めた関係機関の利用調整も念頭に置きつつ、支援体制の整備に取り組んでいきたい。
- 法人内の複数サービスを利用する事から、統一したサービス提供を行えるよう、併設の生活介護との連携をこれまで以上に密に図っていかねばならない。

2014年度 サービス提供時間

| | 利用者数 | 重度訪問介護 | 身体介護 | 家事援助 | (身体有) 通院介助 | (身体無) 通院介助 | (身体有) 同行援護 | (身体無) 同行援護 | (身体有) 移動支援 | (身体無) 移動支援 | 総時間数 |
|-----|------|---------|-------|--------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------|
| 4月 | 51 | 1339 | 207 | 259 | 47.5 | 0 | 5 | 0.5 | 75.5 | 17 | 1950.5 |
| 5月 | 51 | 1301 | 212 | 260.5 | 34 | 2 | 5 | 4 | 76.5 | 14 | 1909.0 |
| 6月 | 51 | 1216 | 232.5 | 282 | 33.5 | 1 | 3.5 | 0 | 74 | 24 | 1866.5 |
| 7月 | 47 | 1249 | 221.5 | 279 | 26 | 1 | 4.5 | 3.5 | 79 | 26.5 | 1890.0 |
| 8月 | 47 | 1210 | 227 | 238.5 | 22.5 | 1 | 5 | 2.5 | 81 | 15.5 | 1803.0 |
| 9月 | 47 | 1283 | 219.5 | 260.25 | 23 | 0.5 | 5 | 4 | 71.5 | 21.5 | 1888.25 |
| 10月 | 45 | 1298.5 | 225. | 246.5 | 19.5 | | 4.5 | 0 | 62.5 | 23.0 | 1879.5 |
| 11月 | 45 | 1246.5 | 157.5 | 228.25 | 20.5 | 2.5 | 5.0 | 4 | 84.5 | 23.5 | 1772.25 |
| 12月 | 45 | 1335.5 | 249.5 | 259. | 13. | 1.0 | 4.0 | 0 | 84.5 | 20.5 | 1967.0 |
| 1月 | 46 | 1262.5 | 242.5 | 252. | 4.5 | 9.0 | 5.0 | 0 | 78. | 12. | 1865.5 |
| 2月 | 46 | 1277.5 | 211.5 | 242.25 | 7 | 4.0 | 4.5 | 3.5 | 57.5 | 21.5 | 1829.25 |
| 3月 | 45 | 1440 | 234.5 | 237.75 | 10.5 | 1.0 | 4.5 | 0 | 67.5 | 21. | 2016.75 |
| 合計 | | 15458.5 | 2640 | 3045 | 261.5 | 23 | 55.5 | 22 | 892 | 240 | 22637.5 |

2013年度の総時間数
23418.25 時間

札幌市障がい者相談支援事業「相談室すきっぷ」

＜事業方針＞

- ①障がい種別に関わらずあらゆる相談の身近な窓口として支援を行なう。
- ②本人支援を基本としつつ、そこからつながる家族、関係者、地域の方への相談支援も状況に応じ行なう。
- ③フォーマル、インフォーマルな福祉サービス、行政、医療などあらゆる機関と必要に応じサービス調整会議、ケース会議などを通じて支援内容、役割の確認をし、効率的かつ本人に対する支援が行なえるような場を積極的に設定する。
- ④本人の意向、エンパワメントを尊重しつつ、可能な限り地域での自立的な生活を支援する。

＜重点項目＞

- ① 「計画相談支援」や「地域相談支援」の対応
- ② 地域保健活動推進事業の地域支援員としての取り組み
- ③ ピアサポーター配置業務の充実
- ④ 「西区地域部会」や「西区精神保健福祉連絡会」への参画

①「計画相談支援」や「地域相談支援」の対応

- ・今年度末登録者は292名（その内、障がい児45名）となっており、昨年度より50名ほど増加。計画相談の登録者数は35名（その内、障害児相談支援8名）となっており、昨年度より倍近くの増加傾向であった。
- ・西区の委託相談支援事業所・西区役所保健福祉課主査との情報交換や勉強会を実施し、各関係機関との繋がりから相談員のスキルアップに向けて取り組んできた。今後も継続的に西区内の委託や指定相談室、西区役所との連携を深められる勉強会を主体的に行っていきたい。
- ・地域相談支援については、年間を通じての相談件数は多くあったが、計画作成を伴う相談支援に繋がるケースはなかった。今後も精神科の病院や入所施設との連携の機会を作っていく必要がある。
- ・下半期から年度末にかけて、相談員の異動又は退職に伴う担当ケースの引継ぎが急務となり、相談者の不安軽減と相談内容を踏まえたケースの持ち方について検討し、担当の再配分を行った。その他、計画相談に柔軟かつ継続的に対応できるよう相談支援従事者研修基礎研修に1名、他計画相談の研修に3名受講した。今後も相談室の体制整備に努めていかなければならない。

②地域保健活動推進事業の地域支援員としての取り組み

- ・定期的な出張相談を区の保健師と継続的に実施し、地域とのネットワークづくりを行った。保健師との情報交換から地域に潜在化していた相談もあり、地域に密着した相談室としての役割は大きくなっていくものと思われる。

③ピアサポーター配置業務の充実

- 他の相談室のピアサポーター同士の交流会（2ヶ月に1回程度開催）を持ち、他相談室におけるピアサポーターの活動内容について情報交換を行った。又、JICA や高校、他県 NPO、社協等の依頼によりピアサポーターの講演を数回行なった。札幌市からの委託とピアサポーター配置加算を受けている相談室としての質的取組みが求められてきている。
- 障がい当事者の立場から、地域住民に向けての社会啓発的な活動と、多様化する相談支援に対応できる様々な障がいのピアサポーター育成が次年度の課題である。

④「西区地域部会」や「西区精神保健福祉連絡会」への参画

- 西区地域部会では、区内の福祉サービス事業所の模擬店や事業の活動紹介、介護予防センターによる体操指導や地域のフリーマーケットと協同し、福祉マーケットを開催する事ができた。地域の方に定着していく為にも、毎年の恒例行事としていく事で地域の方たちとの交流の場と、顔の見える関係づくりに繋がっていくものとする。また、西区地域部会全体会においては地域課題の検討を行い、困ったときに相談できる各機関が一目でわかるパンフレットの作成について議論をおこなってきた。
- 西区で活動している、様々な分野の事業所と勉強会を通じ、今後の相談業務における連携の取り方を共有することが出来た。
- 西区精神保健福祉連絡会では、触法障がい者をテーマにした勉強会を行った。相談室は事務局として地域定着支援センター所長や刑務所福祉専門官の講演などの企画運営に携わった。

<2件の相談支援事故>

- ① 相談者（障がい児の母親）への連絡不十分及び計画案提示の遅滞と制度手続きの不備。
- ② サービス等計画相談を受けていた相談者に関わるモニタリング等の書類作成の遅延。

相談室業務が個人化されており体系化・標準化されておらず、相談員同士の仕事内容・支援方法の適切性・妥当性が話し合われずにいた為、下記の改善策を実施した。今後も再発防止に向け継続して取り組む。

1. サービス等利用計画における業務内容の徹底と管理者による確認作業
2. 相談支援ソフトの導入と相談支援一元管理と情報の共有を図る（経過の可視化、担当件数の再配分）
3. 社会福祉法人内での相談室管理体制の徹底「報告・相談・連絡」
4. 日常の情報共有手段の確保を行う
5. 相談員の職務に係る内外研修を実施と資質の向上を図る

<その他>

7月5日（土）に札幌いちご会ミニバザーに合わせて、相談室のPR広報活動を行った。

札幌市障がい者相談支援事業実施状況報告書(H26.4～H27.3分)

事業所名

相談室 すきっぷ

1 当該年度末における登録者の概況

| 前年度末登録者数 | 今年度新規登録者数 | 今年度抹消登録者数 | 今年度末登録者数 | うち計画相談支援等利用者数 | うち障害児相談支援利用者数 | うち地域相談支援利用者数 |
|----------|-----------|-----------|----------|---------------|---------------|--------------|
| 242 | 59 | 6 | 295 | 36 | 5 | 0 |

〔区別内訳〕

| 中央 | 北 | 東 | 白石 | 厚別 | 豊平 | 清田 | 南 | 西 | 手稲 | 市外 | 計 |
|----|---|---|----|----|----|----|---|-----|----|----|-----|
| 7 | 6 | 3 | 6 | 0 | 3 | 0 | 2 | 243 | 20 | 5 | 295 |

〔障がい別内訳〕

| | 身体 | 重心 | 知的 | 精神 | 発達 | 高次脳機能 | 難病 | その他 | 計 |
|------|----|----|-----|----|----|-------|----|-----|-----|
| 障がい者 | 65 | 4 | 87 | 67 | 19 | 5 | 0 | 3 | 250 |
| 障がい児 | 13 | 2 | 18 | 0 | 11 | 0 | 0 | 1 | 45 |
| 計 | 78 | 6 | 105 | 67 | 30 | 5 | 0 | 4 | 295 |

2 当該年度における相談支援(個別支援)の概況

〔障がい別内訳〕

| 身体 | | | | | | 重心 | 知的 | | | 精神 | 発達 | | | | | 高次脳機能 | 難病 | その他 | 計 |
|-----|----|----|----|----|-----|----|----|-----|-----|-----|-----|----|------|-----|-----|-------|----|-----|------|
| 肢体 | 視覚 | 聴覚 | 言語 | 内部 | 計 | | 自閉 | 他 | 計 | | 高機能 | 学習 | ADHD | 他 | 計 | | | | |
| 878 | 36 | 0 | 0 | 20 | 934 | 6 | 68 | 814 | 882 | 774 | 124 | 6 | 202 | 111 | 443 | 37 | 0 | 7 | 3083 |

〔支援方法別内訳〕

| 訪問 | 来所相談 | 同行 | 電話相談 | 電子メール | 調整・ケア会議 | 関係機関 | その他 | 計 |
|-----|------|-----|------|-------|---------|------|-----|------|
| 335 | 148 | 178 | 976 | 143 | 72 | 1227 | 4 | 3083 |

〔支援内容別内訳〕

| 支援内容 | 件数 | 支援内容 | 件数 |
|--------------------|------|-------------------|------|
| ① 福祉サービスの利用に関する支援 | 1436 | ⑦ 家計、経済に関する支援 | 142 |
| ② 障がいや病状の理解に関する支援 | 141 | ⑧ 生活技術に関する支援 | 187 |
| ③ 健康・医療に関する支援 | 228 | ⑨ 就労に関する支援 | 242 |
| ④ 不安の解消・情緒安定に関する支援 | 364 | ⑩ 社会参加・余暇活動に関する支援 | 31 |
| ⑤ 保育・教育に関する支援 | 143 | ⑪ 権利擁護に関する支援 | 43 |
| ⑥ 家族関係・人間関係に関する支援 | 126 | | |
| | | 合計 | 3083 |

3 相談支援(地域支援)の概要

| | |
|-----------|----|
| 各種会議/研修参加 | 84 |
|-----------|----|